

# 埼玉浮き城プロバスクラブ

2020,12,18 発行 **No. 114** 

例 会 日 毎月第3金曜日 ホテル ガーデンパレス 熊谷市佐谷田 3248 TEL048-525-7777 事務局 〒348-0041 埼玉県羽生市上新郷 5642-2 TEL 048-562-5556 FAX 048-562-5556 会長 須郷 隆 副会長 木島 隆夫 幹事 澤田 良ー 情報委員長 椎橋 俊夫

#### 本日のプログラム

#### 第115回 通常例会

国歌斉唱・プロバスソング斉唱 (プロバス賛歌)

会長挨拶会長 須郷隆幹事報告副会長 木島 隆夫年次総会 会長ノミニー選出議長 須郷隆

委員会報告 · 同好会報告

バースディ報告と会員スピーチ 保泉欣嗣会員他2名 卓 話 「自己紹介をかねて…」 藤倉新平会員 ハッピーボックス披露 例会委員 田口覇洲男

閉会 例会副委員長 岩﨑 安裕 <第114回例会出席率会員34·出席25·出席率73.53%>

# 第114回(11月20日)通常例会

□幹事報告

副会長 木島 隆夫

10 周年記念式典・事業委員会の開催報告について

第1回実行委員会が令和2年11月6日(金)、産業文化会館地下創作室で開かれました。今後の実行委員会は、12月より例会終了後同会場に於いて開催致します。コロナ禍中、不確定な要素を伴う事項も考えられますが、先ずは記念誌編集委員会において今後の具体的な編集方針を決定していきたいと思います。皆様の格別のご協力をお願い致します。

お祝い 11 月誕生日 を迎えられ を会員





小島 敏男会員

根岸 友憲会員

# 会長スピーチ

会 長 須 郷 隆

今つわったにおいます。

皆様こんにちは!

今年もまた年の瀬も迫り何かとせ わしい時期となりました。

皆様にはコロナ禍の厳しい状況 にあるにも拘らずご健勝にて日々 お過ごしの事と存じます。

本年を振り返えりますと新型コロナウイルスの感染拡大に始まりそして何時終息するのか分からない状況で終わる年となりそうです。

いったん収まりつつあった新型コロナウイルスは、11月に入り勢いを増し東京・大阪・北海道等を主体に日々多数の感染者数が発表されて第3波の到来が告げられています。我が町でも11月には22名(累計48名)の感染者が出ました。

GOTOキャンペーンによる人の移動が感染拡大を齎す因であり、国や地方で種々新たな対策が取られつつあります。

経済復興と感染拡大防止と相反する施策の実施は、本当に難しい課題であることを改めて我々に知らしめています。

我国同様世界でも、アメリカ・インド・欧州を中心に感染が急速に拡大しており、11月の1ヶ月だけで1700万人を超える人々が感染し累計では6200万人を超えて今なお拡大しています。

かかる状況の中、7月にスタートした今年度で したが毎月の例会は中断する事なく開催する事が 出来、誠に幸いな事と思っております。

残念ながら、夏·冬の懇親会と移動例会は中止せざるを得ませんでしたが、10月・11月と通常例会終了後に会員委員会主催による健康セミナーと教養講座が開催されました。

10月の健康セミナーは、行田中央総合病院院長の川島治先生の「コロナを正しく恐れる」、11月の教養講座は、埼玉県立文書館主任専門員の若松良一先生による「稲荷山鉄剣と埼玉古墳群」についてのお話でありました。いずれも時機を得た講演であり有意義な時間を過ごす事が出来ました。

畠山委員長・渡邉副委員長を始め関係者のご努力に感謝申し上げますと共に厚く御礼申し上げる 次第です。

また、11月初めの秋の叙勲では、清水孝男会員が「旭日小綬章」を受賞されました。誠に喜ばしくお目出度い事であり、11月例会時に会員の皆様と共にお祝いすることが出来ました。清水様には改めまして心より受賞をお祝い申し上げます。

今年度前半期を概括しましたが、一番喜ばしい 事はこのコロナ禍の中で会員のすべての方々がご 健勝にて過ごされてきたことです。本格的な冬に 入る中、コロナに加えインフルエンザも盛んにな ります。

皆様には今後とも体調管理には充分努められ、 現下の厳しい状況を乗りきってご健勝にて新しい お年を迎えられます事を切に願い祈っております。

#### ハッピーボックス発表

郷、安部、畠山、保泉、小川、鈴木秀憲、山田、田口) ◎叙勲受章のお祝いを有難うございました。「面映ゆき 受章の祝い秋高し」(清水)◎若松先生の講演、郷土の歴 史を再認識する意味で貴重な機会と有難く拝聴いたしま す。(小山、渡辺、椎橋、石塚、藤倉、根岸)◎コロナ禍 第3波が心配です。お互いに十分気を付けて乗り切りた いものです。(大澤、山本、鈴木民儀) ◎ 12月2日(水) ~12月8日(火)八木橋5階アートサロンにて北招会展 覧会があります。木島会員が絵画を私は彫刻を出品いた

します。ご高覧のほどを…。(岡安)◎近日中、個展2ヶ ◎清水様、旭日小綬章、受賞おめでとうございます。心 所とグループ展で作品制作に四苦八苦しています。全部 よりお祝い申し上げます。若松先生の教養講座「稲荷山 で50数点となります。(木島)◎宿題であった巨樹巡礼-鉄剣と埼玉古墳群」の講演大変楽しみにしています。(須 千本達成が今秋成就いたしました。(木村)◎自粛かGo Toかの中で那須、軽井沢、渡良瀬渓谷、秩父の紅葉を満 喫しました。(武笠) ◎ 11 月 11 日、81 歳の誕生日でした。 久しぶりに夫婦で焼き肉店に出かけ、ひっそりと過ごし ました。昔話が出来て楽しかったです。(小島)◎第21回 プロバスクラブ・ゴルフコンペで優勝しました有難うご ざいました。(鴨田)◎行田駅前から自転車で20分かけて 例会参加しました。会員皆様の笑顔と元気ありがとうご ざいます。(加藤)

文責 田口覇洲男



#### 数養 講座

# 稲荷山鉄剣と埼玉古墳群 鉄剣・銅鋺・馬冑から読み解く

埼玉県立文書館主任専門員兼学芸員 松 艮

#### はじめに

埼玉古墳群は江戸時代には『新編武蔵風土記稿』 にも取り上げられ、挿絵と共に武蔵国の最高権力者 である国造の奥津城であろうと紹介されている。現 在の知見に照らしても、当たらずといえど遠からず である。今日は、私がさきたま資料館の学芸員とし て埼玉古墳群について調査し、研究したことを中心 にお話しさせていただきたい。

#### 1 埼玉古墳群の最初の発掘

#### -将軍山古墳と銅鋺の出土―

埼玉古墳群の最初の発掘は明治27年の将軍山古墳 (当時は将軍塚と呼称)であった。堤根村の名主家の 増田五左衛門と行田町の産科医山下銓太郎が中心と なって行われたが、今日のような専門家による調査 でなく、庭石と副葬品が目当てであった。しかし、 明治38年に柴田常恵が「武蔵北埼玉郡埼玉村将軍塚」 と題して『東京人類学会雑誌』に発表すると出土品 の価値はまたたくまに全国に知られるところとなっ た。そのため出土品の多くは帝室博物館と帝国大学 に献納されることとなった。

その中には馬具や刀剣、甲冑類などがあったが、 とりわけ耳目を集めたのは金色まばゆい銅鋺であっ た。金属製の食器は我が国ではなじみが薄いが、お 隣の韓国や中近東では現在でも盛んに使われている。 この銅鋺は佐波理ともよばれ、銅に錫と鉛を入れた 合金で、叩くと音が良く響くので響銅ともよばれて いる。正倉院や法隆寺・東大寺などに伝わっている ため、昭和30年代頃まで、仏像に供えるための仏器 として理解されてきた歴史がある。このため、将軍 山古墳は奈良時代に近い時期の新しい古墳として扱 われることが多かった。しかし、東国まで古墳文化 が伝播するのに著しい時間を要し、前方後円墳が奈 良時代まで下降するはずはなかった。私が注目する 論文に、毛利光俊彦氏による「古墳出土銅椀の系譜」 (『考古学雑誌』64-1・昭和53年)がある。氏は銅鋺 には7・8世紀のものに先立って、古墳時代の6世紀 代のものがあることを、はじめて明確にしたのであ

る。この論文の成果の上に、馬具・刀剣・須恵器な どの編年研究から、この古墳は現在では、6世紀後半 でも古い時期と考えられるようになった。

残された問題は、銅鋺の産地である。毛利光氏は 飛鳥寺の創建のため百済から渡来した露盤博士など の金属轆轤挽き技術者による製作を推定されたが、 出土地の分布から見て、その見解には賛成できない。 なぜならば、銅鋺は近畿地方には極めて少なく。大 半が関東地方から出土しているためである。私は朝 鮮半島産のものが中心であり、主に東国の人々に よって我が国に持ち込まれたものと推測している。 そのきっかけは古代朝鮮三国の争乱に伴って、主に 百済を支援するために、5世紀から6世紀にかけて大

和王権が出兵したこと にあり、かの地で貴人 のための食器として用 いられていた銅鋺を格 別に珍奇、崇高なもの と考えた東国兵(もち ろん上級士官)たちは 持ち帰ったのであろう。



将軍山古墳出土の銅鋺 と銅鈴の復原資料

2 最初の学術発掘―稲荷山古墳と辛亥銘鉄剣の出土―

昭和初期、埼玉古墳群は絶滅の危機に瀕していた。 それは古墳を削って沼地を埋め立て、食糧増産をす ることが社会に受け入れられようとしていたからで あった。稲荷山古墳も例外でなく、昭和12年に前方 部が跡形もなく破壊されてしまった。しかし、埼玉 村の人々は団結して、保存運動に取り組み、共有地 を埼玉県に寄付したことから、翌年、国史跡指定と して、保存されることとなった。そして約30年の後 に、文化庁の推進する「さきたま風土記の丘」の建 設が決まり、新設の資料館に展示する目的で、昭和 43年に初めての学術調査として、稲荷山古墳の主体 部調査、48年には周堀調査が実施された。

稲荷山古墳の埋葬主体部は、墳頂部から竪穴系の ものが2基発見された。奇妙なのは2基とも中心部 から大きく外れていたこととわずか30 cmという浅 い場所にあったことであった。そのなぞは近年の レーダー探査によって、氷解した。中心部の 2.5 mの 深さに本来の墓主の埋葬部が残されている可能性が 高まったのである。このことから、鉄剣を出土した 礫槨は墓主の子孫の可能性が出てきた。長子が二子 山古墳に埋葬されたという前提に立てば、次男が埋

葬されていた可能性が考えられる。このように、一つの古墳に時期の違う棺が次々に埋葬される例は、大泉古海前原1号墳など、さきたま周辺の利根川流域に知られている。

礫敷きの槨に舟形木棺を納めたと推定される第1 主体部の主要な副葬品を紹介する。腰の位置から見 つかったのが金銅製帯金具であり、竜が透かし彫り されている。竜は中国では伝統的に皇帝の象徴であ り、皇帝が武官に軍令を発する場合、この竜の帯や 旗を与える定めがあった。鏡は白銅質の画文帯神獣 鏡である。三角縁神獣鏡より出土枚数の少ない貴重 な鏡で、中国製の可能性が高い。鉄剣は2振りが出 土したが、その一方に文字が書かれていることは誰 も想定していなかった。鞘木がこびり付いていたた めであった。

昭和53年に保存状態の観察のためX線写真を撮ったところ、文字の存在が明らかとなり、慎重に錆落としを行って、樹脂による補強措置を経て今日の姿となったものである。鉄製の剣に合計115文字を彫りこみ、そこに金の針金を埋め込んで製作されている。わが国最古の文章が記されており、しかもこれほど優れたものは一つも知られていなので、国宝の中の国宝という事ができる。指定名称は金錯銘鉄剣である。115文字は一つの欠もなく明瞭なので、埼玉県が発表して通説化している岸俊男京都大学教授の読み方を紹介しておこう。

辛亥年、これは干支表記であり西暦 471 年としてよい。七月記す。ヲワケの臣の上祖(一番古い先祖)はオホヒコで、その子がタカリの宿称、その子の名がテイカリワケ、その子の名がタカヒシワケ、その子の名がタサキワケ、その子の名がハテヒ、その子の名がカサヒヨ、その子の名がヲワケの臣である。世々(代々の意)杖刀人の首(親衛隊長)として奉持(お仕えするの意)して今に至っている。ワカタケル大王(のちの雄略天皇)の寺(役所の意)がシキの宮にあった時、吾は天下を左治(補佐の意)し、この百錬の利刀(よく鍛えた切れる刀)を作らせて、吾が奉事の根源(由来の意)を記しておく。

70 with. po 灰年 tt 人一首 5 分 地 疝, 34 A. 利。 居 314 中 カ Į. 雪 發居其 no 利 끟. 另 君。 尾。 龙 A 景 被 鬼 汉 租 天 支 男 名 協 下 7号 3

稲荷山古墳出土 国宝金錯銘鉄剣の金象嵌文字トレース図

この鉄剣を杖刀人首であった中央豪族からもらったものとする意見がある。しかし、系図を掲げた上

で、大王との関係が記されているので、不都合であ る。やはり、被葬者本人の製作させたものと考える べきである。井上光貞博士が説いたように、当時、 舎人(とねり)や靫負(ゆげひ)として東国から大王 の許に上番する制度があったとみるのがよかろう。 したがって、稲荷山古墳を築いたカサヒヨの次男で あったヲワケはワカタケル大王に杖刀人として仕え、 晩年は故郷に戻って、父の墓の片隅に葬られたので あろう。兄は父の跡を継いで、地域を支配する首長 となっていたはずである。氏とカバネは丈部直(ハ セツカベのアタヒ)を名乗っていたものと考える。 丈部鳥麻呂の紡錘車が行田市小針遺跡の9世紀の住 居跡から発見されたこともこれを傍証している。 なお、読み方と解釈には多くの説が発表されている。 その大多数を、若松が文学館の図録(若松『考古学 と文学』平成28年3月)に収録してあるので、ご一 読をお勧めする。

### 3 出土品の再検討で発見された将軍山古墳の馬冑 平成2年



将軍山古墳出土の馬冑復原資料

発表を行っている。馬冑とは戦闘時に馬を弓矢から守るために制作された冑であり、古代中国と朝鮮で騎馬戦の折に使用されていたものである。しかしわが国ではわずかに3例しか存在が知られていない。将軍山古墳以外の出土例は和歌山県和歌山市大谷古墳例(前方後円墳70m・5 c末~6 c初頭)と福岡県古賀市船原古墳例(前方後円墳45m・6 c末~7 c初頭)である。被葬者は前者が紀氏、後者が宗像氏の可能性を指摘されているとおり、実際に、朝鮮半島へ出兵した可能性が考えられるので、彼の地から持ち帰ったと見られよう。

将軍山古墳の馬冑は若松の型式分類によれば、組み合わせる鉄板の枚数が多い点で古い特徴を持っており、5世紀中頃の製作と推定される。将軍山古墳は6世紀後半の埋葬であるから、実に100年以上も時期を異にしている。このことは代々宝物として伝えられたことを物語っており、父祖の歴史を受け継ぐものであったであろう。こう考えた場合、埼玉古墳群を築いた首長たちの先祖は武人の家系であり、朝鮮半島に出兵経験のある指揮官クラスの人物がいたのであろう。

日本書紀における大和王権の朝鮮派兵記事は4世紀末から天智2年(663)の白村江の戦いまでの約300年に及ぶ。広開土王碑の辛卯年(391)の渡海記事のように書紀以外の証拠もある。任那を足掛かりとし、主に新羅に対して軍事行動を行い、百済とは同盟関係にあった。葛城・紀、膳、筑紫、近江毛野、阿倍、大伴などの軍事氏族が将軍として渡海している。ま

た倭五王は中国王朝に対し、半島での軍事権を認めようとさせた。

#### 4 今後の課題と予察

日本書紀には武蔵国造争乱の記事があり、埼玉古墳群の研究上、避けては通れない。学史を概観すると、古くは甘粕健説や金井塚良一説があるし、近年では利根川章彦説・飯塚武司説・城倉正祥説などがある。その多くは日本書紀の記すままに安閑元年(534)のこととしている。これに反して、土器の研究からその時期に戦乱はなかったとするのが利根川章彦説である。若松は菖蒲天王山古墳と鉄砲山古墳がともに横穴式石室の石材に群馬県榛名山噴出の角閃石安山岩を用いており、しかも規模が拮抗していることに注目して、武蔵国造家の内乱はこの2古墳の被葬者によるものと考えている。したがって、実際に内乱が起こったのは6世紀末葉のことであったとしなければならない。

若松は武蔵国内の総括的な古墳編年案を提示した 上で、武蔵国造が大和王権に献納したとされる横渟 (のちの吉見) 屯倉で、6世紀末葉に横穴墓の導入な どの葬制の大変革が起こったことを論証している。 ここで問題となるのが、鉄剣に書かれているのは阿 倍氏や膳氏の系譜であるので、文部氏が武蔵国造家となるのは理解できても、それがなぜ出雲系に代わっていったかを説明できた人はいなかったことである。若松の新稿「古墳葬制の変革と横渟屯倉の設置時期」(『文書館紀要』31号 平成30年)では、大和王権が出雲系の大移民によって6世紀末葉に横渟屯倉を置いたことを論証している。

このほか、文献資料を用いての研究成果の発表は他日に譲りたい。



# 会 員 投稿



# アフターコロナの プロバス活動について

渡辺栄一

去る 10 月 16 日の 10 月例会後行われた恒例の「健康セミナー」で講演された元会員の行田中央総合病院創業者の故川島清先生のご子息で現在院長の川島治先生から、その後お手紙を頂きました。

その中に「'父が(会員として)ご厚情を頂いていた皆様とひとときを過ごさせて頂くのは懐かしく、又皆様に喜んで頂ければ父への孝行の真似事になる心持ちがし、私にとっても幸せな一時でした」と書いてありました。

御父君の川島清先生は、クラブ創立時にはご多用のためどうしても入会出来なくて、その後やっと入会出来ました。短い間でしたがプロバス会員として一緒に楽しんで頂きました。「俺はこのクラブに入れて本当によかったよ」としみじみ言われたのは昨日のことのように思い出されます。御父君の意向を継いでご子息の治先生がご多用の中クラブの健康セミナーに出講して頂けるのは誠に光栄であります。

現在未曾有のコロナ禍に見舞われている本クラブの会員の多くは、このような事態にこそ自分たちの財産でもあります朋友同志との親睦と友情を深めながら意見や情報を交換し、自分の人生の充実の一助にしようとしている人が多いかと思います。

集まって互いに交流することを善として生きてき

た私達と云うより人間は、今これが悪だと云われて 困惑している状態です。

現実の事態は、そうせざるを得ません。何としても社会全体で協力して感染拡大を終束させなければなりません。そのために集まりを避けねばならぬ事が最善であり、国家社会の急務であることはよくわかります。

それは社会人一人ひとりの義務でもあります。

しかし斯うした義務感の根底には共通した社会人意識が必要であります。全体主義体制の国家ならいざ知らず、私達の民主主義体制国家にあっては、究極の意識とは国民の連帯感とモラル意識ではないでしょうか。コロナ感染拡大の第1波の頃は「'国民の民度の違いだ」などと云って他国との優位性を謳歌した人もいましたが、今や医療崩壊も辞さないような事態となっては危うい限りであります。

コロナ禍による世間の「新常態」の発生はプロバス活動にとっては、これ又大きな環境変化であります。逐一記述する時間はありませんが相当の影響があります。

こうした諸々の情況に対応して、クラブの目的を 踏まえながら、改めてクラブ運営やその活動のあり 方について吟味をして、その都度の対応策でだけで なく、新たな強い会員意識を再確認し、前向きで難 局に対処した方針を考えるべきかと思いますが如何 でしょうか。

ウィズ(WITH)コロナのプロバス活動のあり方とも云うべき事かと思います。勿論現行の方針を踏まえて更なる補足と充実を図ろうとするものであります。

「コロナから身を守りなが、コロナと共存しながら、

私見でありますが一例として、下記事項を提起いたしますので、会員諸兄のご意見なりご感想をお聞かせ願えれば幸甚であります。

① 例会、同好会その他の集会方法の点検と具体的対策の明文化。

(例)、規制された事項としてマスクの着用、消

毒と手洗い、着席方法その他、君が代、プロバス 賛歌の斉唱から黙奏へ切り替え、特例としての 出席のオンライン化、懇親時間の延長と方法の 検討、

- ② 会報の有効活用、
- ③ 会員の交信方法の現状確認と改善策の検討 その他省略



## 気まぐれ放言

山田義明

日々の退屈な日常と裏腹に原稿メ切りが近ずくと焦りに感じてくるこの頃であるが、 今回は執筆に不自由ない話が重なって、興奮気味である。

相変わらずコロナ禍であるが外食に飲食店を散策すると、如何に無防備な店が多い事か、あまりにも緊迫感のない店が多い事に気が滅入る。

この際多少の経費は仕方ないが、とある甘味喫茶へ立ち寄ったら写真の様な透明のパーテイションに出会えた。 透明ビニールと間仕切り用の金具を麻紐で結んだに過ぎないが、お洒落なセンスにほのかな温もりを感じたのは、小生だけではないと思う。工夫によっては、安心を売る店、この客足の少ない時の良いアイデアだと、称賛したい。

今一つは。行田の運動公園であるが、素晴らしいボランテアの方に偶然出会う出会う話……

公園には「動物を傷つける、捨てる、世話を怠ることは犯罪です」と掲示板に張り紙がしてある。 ある日一匹の猫が物欲しそうな姿で植え込みから出てきて、待って居る姿に見とれていると、若そうな マスク姿の女性が餌をくれに来たので、恐る恐る聞いてみたら、殺処分されるより、命を助けてあげたいと10年近くも雨の日も餌をくれて居るとのこと。そして、子猫が増えない様避妊手術の活動をしているとの事、動物愛護団体よりお墨付きの活動で表彰された事もあると言う。この話は書ききれない程の美談があり費用など顧みず頑張っている。又、小生より若そうな方で、耳が遠い方だが食べ残しの器を片ずけにきて清潔を維持しているそのコンビに改めて心を打たれ、小生も百万分の一の手伝いに足手まといにならぬ様に応援している。

小生の楽しみの一つが増えて満足している。大満 足の日々といっても過言ではない。スーパーボラン ティアの尾畑さんには及びもしないが、元会員の元 大使の小野さんが家内が飼い猫の名前は憶えていて も私の名前は忘れてしいそうだ。思い出されてなら



透明のパーテイション



公園の猫



#### 行く秋やわが難聴の進みおり

小 山 博

87歳に入ってきた今日この頃、意識的に自らに「気合」を入れているつもりですが?

アメリカでは品性に欠けるトランプ氏から、78歳 のバイデン氏を大統領に選んだ。

アメリカが世界のトップリーダーとして、高齢のバイデン氏を選択したことは、アメリカ国民のせめてもの救いであり「そうでなくては」と世界を一応安堵させた事だと思う。

最もバイデン氏が果たして世界のトップリーダー として「静かなる落ち着いた世界 | に導いてくれる かどうかは、政治の世界だけに全く予想もつかないというのが本音である。

日本にとってどうかと言う事より世界にとってど うか今後に期待するしかない。日本の菅総理と共に 頑張ってくれる事を祈る。

さて 60 歳以上の「キャリア」をもつ人材で構成する我がプロバスクラブ。もうすでに 10 周年だ。創立時からかかわっている私も歳には逆らえないなぁと実感している。幸いにも我が「埼玉浮き城プロバスクラブ」の現状は発足時目指した 30 名を維持している事は「みごと」という他はない。

私自身は補聴器で補いないきれない程耳が遠くなった。まして「マスク社会」でお顔が見えない。 表情で判断できない会員との会話が更に難しい。

だからどうした?皆と例会や句会でお逢いできるだけ幸せではないか?月1度の例会が近づくと何となく心が浮き立つ。そしてプロバス賛歌を皆と一緒

に歌う時、一番の幸せを感じる。月刊「埼玉浮き城 クラブ通信」は何回もその会員の顔を想いながら読 み返す。

87歳に突入したこの年代まで培った「知識と経験」を若者達に伝えようとする気力は決して失わない決意だ。

「名もない草も実をつけて命いっぱいの花を咲かせる」(相田みつを)

人生 100 年時代、まだまだ先がある。楽しみがある。 「クラブ」を次の世代に引継いでもらえるような 「素敵な品格のあるクラブ」にする努力を惜しまない。

「埼玉浮き城プロバスクラブ」栄光あれ。





## 「玉、磨かざば・・・」

中島捷二

我が住持する盛徳寺では、昭和三十年十月一日に 前本堂の落慶法要が勤修されました。

私が小学三年生の時でありました。旧本堂の古材が多用された本堂でした。私の父は、「雨・風が凌げれば、それで良し。」と自身に言い聞かす様な言葉を話しておりました。当時の私には父の想いを理解する事が出来ませんでしたが、卑しくも自分の信仰する御本尊様を雨風が凌げれば良いとは悲しい限りであります。私が住職として晋山し、当時の父の想いというのを考え、本尊様の威光が倍増する様な本堂を建立しなければならないとの想いが沸き上がってきた事を鮮明に覚えております。爾来、その想いが達成され、平成二十四年にお檀家様の御協力を得て、現在の本堂を落慶する事が出来ました。仏恩・亡き両親への恩・大切な方々への恩返しです。

話は前後しますが、昭和三十年、前本堂の落慶式を迎える七月の暑い日差しの中を自転車に乗り足利市から来られた御方がありました。白い開襟シャツを着た御方は汗を両手で拭いながら当時住職の父に対して「私は足利で書を生業とする者ですが、新しい本堂の襖に書を揮毫させて頂きたい。」との申し入れがありました。大変な想いで本堂を建設した父は無一文で資金が無く、その申し出を丁重に断り、砂糖水を振舞い一時間程度話をして、足利に帰宅をなされました。その御方が後に有名になられる「相田みつお」という御方であります。大成なされる前の苦難多き日々の御姿でありました。

その相田みつお氏の詩に「メロンが高いからといって、トマトの木にはメロンはならないんだよなあ。トマトは、トマトなんだよなあ」(略釈)があります。

また、私の師僧が修行の合間に火鉢を囲んで暖を 取っていた時に『「昔、中国に馬祖という高名な禅僧 がおられた。この禅僧の噂を聞きつけ多くの修行僧 が門を叩かれた。ある修行僧が訪れた時、馬祖禅師 は「かわらけ」を磨かれておられた。修行僧が色々

と質問をされたが一切答えず、一心に「かわらけ」 を磨かれておられた。後日、その修行僧が再び馬祖 禅師のもとを訪れると、今度は「石」を一心に磨か れており修行者の質問には一切答えられなかった。 この修行僧は立腹し「かわらけ」を磨いても「鏡」 にはならない。「かわらけ」は「かわらけ」、「石」は 「石」。との言葉を残し立ち去った。|お前(私の事)は、 この話をどの様に考えるか?お前の一生を懸けて思 索してごらん。』と申されました。あれから五十余年 が経過し、師僧は浄土へと旅立たれ、私には未だ はっきりとした答えが見つかりませんが、相田みつ お氏の詩から「トマト」は「トマト」たる徳性を見 性し、その徳性を活かして行く。また、馬祖禅師の 話、「かわらけ」は「かわらけ」、「石」は「石」、「鏡」 にはならない。確かに道理であります。私達は、よ り良い生き方を求め、色々な情報を得て、右往左往 します。おそらく馬祖禅師は「磨く」という行為の 中に言葉では言い表すことの出来ない真実という仏 の教えを教示されたのではないでしょうか?

「メロン」も「トマト」も「かわらけ」も「石」も みな自身の投影であります。自分自身をよく見つめ 直し、考え行動を起こす事が大切であると思います。

今の世相を顧るに、自由を追い求め謳歌する余り、 自己主張のみ強く、自己の特性を忘れ、品位のない 行動が多く見出されます。改めて自己の自己たるを 認識し、徳のある人生

を過ごしたいと考えます。

「玉、磨かざれば光なし」との格言がありますが、たとえ光を発する事が出来ずとも、磨くという行為を大切にしていきたいと思います。自分に与えられた環境の中で多くの支えを頂いて生かされている喜びを感じ、その喜びを自身の生きる力とし、光出ずとも懸命に自己を磨き艶の出る人生を送りたいと思います。間違っているか分かりませんが、これが現在の私が師の問いに対する答えです。

私にとりましてプロバスクラブは 自己を磨く研修の場であると考え ます。

会員の皆様方の一層の御慈援を賜ります様、お願い申し上げます。

